

令和4年度 網走厚生病院看護部 教育計画

【 看護師 】

ラダー	目 標		研修内容		
	到達目標	ねらい	研修名	項目/内容	
新卒1～2年目 ラダーⅠ	<p>1. 網走厚生病院の理念を理解し組織の一員としての自覚をもち社会人として、また専門職業人として基本的姿勢と態度で、責任ある(医療倫理・看護倫理・コンプライアンス)</p> <p>2. 看護部の理念を理解しセクション内及び自己の看護活動についてその結びつきを理解できる</p> <p>3. 基礎的な知識と技術を習得し指導助言を受けながら安全で安楽な看護が提供できる</p>	<p>網走厚生病院の職員としての自覚を持ち、当院の看護について理解する。</p> <p>職場への意欲的な導入を図る。</p> <p>基礎的技術の習得を図る</p>	看護部オリエンテーション・技術研修	<p>看護部の概要、理念・方針・目標 委員会・職業倫理・コンプライアンス・AMS 災害・防災管理・防火設備</p> <p>院内案内</p> <p>看護部の教育体制①(キャリア開発ラダー、 看護師会・看護協会、BSC、人事評価制度)</p> <p>看護部の教育体制②(新人看護職員研修概要、個人票)</p> <p>看護職として働くこと(社会人基礎力)</p> <p>自己紹介・コミュニケーション</p> <p>安全管理・個人情報の取り扱い・コンプライアンス</p> <p>セーフティレポートの書き方、入力演習</p> <p>コミュニケーションゲーム</p> <p>感染管理(予防策・手洗い・廃棄物取り扱い等)</p> <p>技術研修「採血」「血糖測定」「口腔ケアと胃管挿入・経管栄養」 「体位変換」「寝衣交換・おむつ交換」「移乗・移動」 「地下・1F・2F消火栓・AED等の確認」</p> <p>PNSIについて</p> <p>認知症ケア加算について</p> <p>グループワーク</p> <p>情報管理 バイタルサインなどの入力演習</p>	
			日本看護協会の「倫理綱領」は看護師の行動指針であることを理解する	倫理研修Ⅰ	「臨床倫理入門」
			救急蘇生に必要な基本的知識、技術を習得できる	接遇研修 BLS研修 eラーニング	本部主催 新入職員対象 救急蘇生に必要な基本的知識 「新人看護師のあなたが知っておきたい急変対応」 「救命救急処置(急変対応)」
			静脈注射に必要な知識を備え、基本的な実践能力を身につける	静脈注射研修 eラーニング メンバーシップⅠ研修①	・静脈注射を安全に実施する基礎知識が理解できる ・静脈注射チェックリストに準じた安全な手順が理解できる 「もうヒヤヒヤしない！静脈注射の基本をマスターしよう」 ・チームにおけるメンバーの役割を理解する ・チームメンバーとしての行動を考慮することができる ・必要なコミュニケーションが理解できる 「メンバーシップ・フォロワーシップ」 ・フィジカルアセスメントの基礎
			チームメンバーとしての自己の役割を認識し、今後の課題を明確にする	eラーニング メンバーシップⅠ研修①	
			フィジカルアセスメントの基礎を学び日々のケアに生かす	eラーニング フィジカルアセスメント①	
			褥瘡予防ケアの基本を学ぶ②	褥瘡研修会	・褥瘡予防: スキンケア ・褥瘡発生メカニズム・体圧分散など
				医療安全講習会	新人対象
			ニーズを捉える力、ケアする力の向上	(メンバーシップ研修内) 放射線・MRI安全管理講習会	がん、認知症看護の基礎を学ぶ
			基礎的技術の習得を図る	技術研修③ 技術研修④ 技術研修⑤ 技術研修⑥	多重課題 無菌操作 気管内挿管介助 テスト研修
基礎看護技術を習得し、臨床実践能力を高める 各部署の看護の特殊性を知り自部署の看護に結びつける	ローテーション研修	技術到達目標「Ⅰ」の項目に対し未習得な物について学ぶ			
チームメンバーとしての自己を振り返り、2年目に向けて自己の課題を明確にできる。	メンバーシップⅠ研修② (フォローアップ)	・メンバーシップにおける自己の課題を明確にできる ・課題解決のための具体策を考慮することができる ・看護過程の理解を深めることができる ・ケーススタディの目的・方法を理解し、実践に繋げることができる			
看護実践能力の4つの核となる力を踏まえて看護過程の一連の展開方法を学ぶ。	看護過程・ケーススタディ導入				
フィジカルアセスメントの基礎を学び日々のケアに生かす	フィジカルアセスメント② eラーニング	・フィジカルアセスメントの基礎について学ぶ 「フィジカルアセスメントの戦術」			
卒後2～4年目目安 メンバーシップ ケーススタ ラダーⅡ	<p>1. 看護チームの一員として、自覚と責任ある行動が取れる</p> <p>2. メンバーシップの理解とチームメンバーの役割を果たすことができる</p> <p>3. 受け持ち患者に適切な看護ができる</p>	<p>チームメンバーの役割を發揮し、自己の実践課題を明確にする</p> <p>アセスメントから患者の全体像をとらえ、受け持ち患者の看護過程の一連をまとめる</p> <p>レベル3薬剤投与のため正しい知識をもとに安全にCVポートデバイスから静脈注射抗がん剤投与ができる</p> <p>指導者として新人との関わりを振り返り今後の課題を明確にする</p> <p>各部署の看護の特殊性を知り、自部署の看護に結びつけ、臨床実践能力を高める 臨床場面において倫理問題に気づくことができる</p>	メンバーシップⅡ研修	問題意識を持って日常業務を行い、問題解決の為のメンバーシップが理解できる	
			ケーススタディ研修	受け持ち患者の看護過程をケーススタディとしてまとめ振り返ることができる	
			静脈注射研修① 静脈注射研修② ポートアドバンスコース	静脈注射やレベル3の薬剤の必要な知識を理解し実施できる ①安全対策・法的責任・薬剤管理 ②感染対策ポートについて、アドバンス 穿刺練習	
			新人指導者研修(フォローアップ)	新人指導を振り返り今後の課題を明確にすることができる	
			ローテーション研修		
			倫理研修Ⅱ	「看護職のための臨床倫理 ～倫理的感受性を育む～」 意思決定を支える力として、ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認しケアに関与づける事ができる	

ディ終了	ニーズを捉える力、ケアする力の向上	(倫理研修内)	がん、認知症患者の病態アセスメントを学び、実践につなげることができる
	看護理論や概念を理解し事例研究の一連のプロセスを学ぶ	事例研究導入研修	事例研究のプロセスを理解できる
	新人指導者としての役割が理解できる	新人指導者導入研修	看護理論や概念の活用方法を理解し実践に繋げる事ができる 新人の特徴を理解し、指導の実践に繋げる事ができる

4年目～7年目目安 リーダーIII 事例研究終了	1. リーダーシップを理解し、チームの目標達成に向けて貢献できる 2. 受け持ち看護師として、人間性を尊重した個別的な看護が実践できる 3. 患者・家族の意見・希望を汲み入れた看護が実践できる 4. 新人の指導ができる	看護研究メンバーの一員として研究に取り組むことができる	看護研究研修① 看護研究研修② 看護研究研修③	看護研究～研究テーマの絞り込み～ 看護研究～研究計画書編～ 看護研究計画書完成 結果・考察の考え方 別紙参照 3講義視聴 「看護研究とは」 「研究テーマの絞り込み」 「計画書を作成する」 プレゼンテーション
	事例研究をリーダーIIIでの必須条件とし、PDCAはリーダーIV「チームリーダー研修」としての位置づけとする	研究計画書を立案し、計画書に基づいた看護展開を実践し、理論や根拠をもとに考察しまとめる	事例研究研修	受け持ち患者の看護過程を事例研究としてまとめ、看護を振り返ることが出来る
		リーダーシップを理解し所属部署においてリーダーシップが発揮でき、指導的役割が遂行できる	リーダーシップ I 研修	リーダーとして所属部署での自己の役割を認識でき、課題を明確にする
		ニーズを捉える力、ケアする力、協働する力、意思決定を支える力の向上	(倫理研修内)	がん、認知症患者の身体・精神・社会的側面からアセスメントし、看護展開につなげることができる
		臨床実習指導者としての役割が理解できる	臨床実習指導者導入研修	学生の指導要綱を理解し、ニーズに応じた指導ができる
		指導者として新人との関わりを振り返り今後の課題を明確にする	新人指導者研修	新人指導を振り返り今後の課題を明確にすることができる
		倫理問題への対応について教育的役割を果たすことができる	倫理研修III	①倫理的ジレンマから問題や課題を明確にすることができる ②倫理原則に沿って看護を振り返り実践に繋げる事ができる 「看護職のための臨床倫理 ～倫理的感受性を育む～」
		厚生連の事業を理解し、保健・福祉活動に参加できる 退院後の生活の場について理解し、多職種との連携を進めることができる	ローテーション研修 退院支援ケア研修	訪問看護、地域包括病棟などを含め研修する 退院前後訪問レポート提出 ①在宅・施設ケアについて理解する。 ②退院前後訪問等を含めた事例についてGWを通して振り返る
7年目～9年目目安 リーダーIV	1. 組織目標(厚生連)達成に向けて主体的に行動できる 2. 看護実践モデルとしてリーダーシップを発揮し、看護の質向上に貢献できる 3. 良質な看護提供のために他部門との、調整や連携に目を向けることができる 4. 在宅などへの継続性、地域医療連携などを視野に入れた看護を実践できる 5. 学生・後輩の個々に応じた指導ができる	組織目標に向け主体的に行動できる リーダーとして自部署を分析し、次年度の部署目標の立案に参画できる	リーダーシップ II 研修 (SWOT分析)	リーダーとして自部署を分析し、次年度の部署目標の立案に参画できる
			eラーニング	「チーム医療におけるタスクシェア」「医療従事者に必要なキャリアの作り方」
		日常的に問題意識を持ち、部署全体の状況を把握しPDCAを用いて取り組むことができる	チームリーダー(PDCA)研修	自己の課題を持ち主体的に取り組むことができる (個人・共同、院内外発表については問わない) ①研究計画書または②プレゼン企画書(PDCA)作成する。 必ず2サイクル以上回すこと。
		ニーズを捉える力、ケアする力、協働する力、意思決定を支える力の向上	(倫理研修内)	がん、認知症患者の身体・精神・社会的側面から看護ケアマネジメントへつなげることができる
		倫理的問題への対応について、教育的役割	リーダーIII倫理研修	オブザーバー
リーダーV	1. 看護の専門性を追求した良質な看護が提供できる 2. 他職種・他チームとの調整・協議しチーム医療を提供できる 3. 問題解決や目標達成に向けてリーダーシップが発揮できる	倫理的問題の対応について、コーディネート役割を果たすことができる	リーダーIII倫理研修	オブザーバー
		自分のキャリアプランを計画し、それに向かい自己研鑽・行動化できる	管理者・チーム医療コース	2テーマ自己選択

### 【看護補助者】

リーダー	到達目標	目標	ねらい	研修名	研修内容	項目/内容
看護助手補助者レベル	網走厚生病院看護部の一員として規律を守り、指導や教育の基で、基本的な看護補助業務を実践できる	チームメンバーとしての自己の役割を認	メンバーシップ研修	メンバーシップ研修	・チームにおけるメンバーの役割を理解する ・チームメンバーとしての行動を考えることができる ・必要なコミュニケーションが理解できる	
ヘルプII(中堅)	網走厚生病院看護部におけるチームの一員としての看護補助業務を理解し、メンバーとして主体的に実践できる	チームメンバーの役割を發揮し、自己	メンバーシップII研修	メンバーシップII研修	・チームの一員としての看護補助者業務の理解 ～業務範囲と役割、夜勤業務、ほう・れん・そう～ ・「環境整備」「入浴のお世話」「清潔のお世話」 「排泄のお世話」「食事のお世話」「洗面のお世話」 「口腔ケア」「移動のお世話」 上記より2講義以上視聴	
ヘルプIII(習熟者)	網走厚生病院看護部におけるチームにおいて、積極的に看護補助業務を実践し、看護補助業務の習熟者として役割を担うことができる	リーダーの役割について理解し行動でき	リーダーシップIII	リーダーシップIII	・メンバーの動きに気を配り、業務の調整ができる ・メンバーからの情報を正確に得て、事実確認を行い必要時に上司や看護師に報告・連絡ができる	
				eラーニング	・守秘義務、個人情報基礎知識 ・「環境整備」「入浴のお世話」「清潔のお世話」 「排泄のお世話」「食事のお世話」「洗面のお世話」 「口腔ケア」「移動のお世話」 上記より2講義以上視聴	

IV層 （ 看護 補助 手 補助 者 補助 者 レ ベル ）	網走厚生病院看護部における チームにおいて、積極的に看護 補助業務を提供し、看護補助業 務のリーダーとして役割を担うこと ができる	リーダーシップを理解し所属部署におい てリーダーシップが発揮でき、指導的役 割を担うことができる	リーダーシップIV	研修参加(介護福祉士枠)
			eラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理の基本</li> <li>～医療機関において求められる倫理的な行動～</li> <li>・「環境整備」「入浴のお世話」「清潔のお世話」</li> <li>「排泄のお世話」「食事のお世話」「洗面のお世話」</li> <li>「口腔ケア」「移動のお世話」</li> <li>上記より2講義以上視聴</li> </ul>